

2026年1月1日

あわら市をより豊かに!

あわら市議会議員

青柳篤始（あつし）

市政報告 Vol.019

～新年のご挨拶～



あけましておめでとうございます。旧年中は温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。皆さまが穏やかに新年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。

昨年は市内の行事や活動を通じ、多くの方とお話しする機会に恵まれました。その一つひとつのお声に触れるたび、「よし、もっとがんばろう」と背筋が伸びる思いになります。市民の皆さまからいただく言葉こそ、私の大きな原動力です。

本年も、市民の皆さまの暮らしに寄り添いながら、現場を歩き、声を聞き、一歩ずつ、確実に、あわら市の未来を前に進めてまいります。

〝全力で駆け抜ける〟の言葉を胸に、地域の課題やにぎわいづくりにも果敢に取り組み、必要な提案を形にしていきます。また、「伝える」だけでなく「伝わる」発信も意識し、皆さまと一緒に前へ進む一年にしていきたいと考えています。

本年もどうぞ変わらぬご支援を賜れますと幸いです。皆さまにとって笑顔あふれる一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

若者の挑戦を引き出す仕組みを学ぶ



若者が支援を利用しやすくする仕組みを学ぶため、全国的にも珍しい若者特化型のコミュニティ拠点を視察しました。

若者の「やってみたい」を「やってみる」に変えることを目的として作られた施設は、多様な活動を受け止める環境が整っており、利用者の声を丁寧に拾いながら運営されていました。

中でも印象的だったのは、相談しやすくする工夫が随所にあったことです。カウンター型の喫茶スペースにはお洒落な本が並び、立ち寄りやすい雰囲気がつくられていました。相談や交流のハードルを下げるための仕掛けが至るところに用意され、誰でも気軽に相談できる空間となっていました。



「挑戦を引き出し、形にするまで伴走支援したい」と、担当者の方は話されていました。

職員と利用者の距離が近く、まずは一緒に考えるという柔らかい支援の姿勢から、若者の挑戦を最後まで支えようとする強い想いが伝わってきました。

あわら市でも、若者が安心して挑戦できる場づくりが重要です。今回得た学びを、若者支援や地域活動の環境整備に生かしてまいります。

12 月議会 一般質問の裏側



12 月定例会が 11 月 25 日から 12 月 17 日までの会期で開催されました。

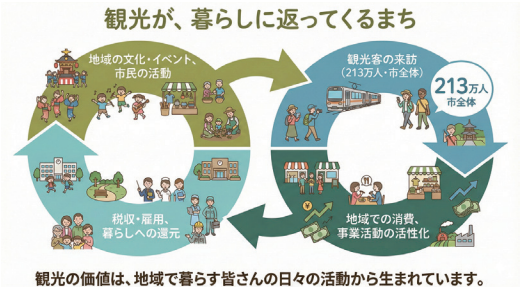
一般質問の裏側ということで、想い・考え方・反省点・今後をみなさまにお伝えします。なお、全文に関しては私のホームページに原文どおり掲載しています

今回の一般質問は、「暮らしと観光」をテーマに、質問をさせていただきました。これをきっかけに、あわら市がより豊かになるための取り組みが始まることを期待しています



観光が暮らしに返ってくるまちへ 地域が主役の観光政策

観光の裏側の力とは？



観光の価値は、地域で暮らす皆さんの日々の活動から生まれています。

最近、「芦原温泉にはお客さんが増えているの?」と聞かれることが多くなりました。温泉街の来訪者数だけを見れば過去最高ではないものの、あわら市全体では 213 万人（令和 6 年）と、過去最高を記録しています。

重要なのは、この 213 万人という数字には、温泉街だけでなく、地域のイベント・文化活動・体験型の取り組みなど、〝市全体の動き〟が反映されているという点です。

行政主導の観光施策では施策が一方向に偏ってしまいがちです。温泉街の数字のみに注目していては、地域に眠る多様な魅力を十分に活かすことができません。地域には、行政だけではつくれない魅力がたくさんあります。特に小規模イベントや文化活動は、統計には出づらいものの、滞在時間の増加や再訪に確実につながっています。

これこそが〝観光の裏側の力〟です。

観光の価値は、地域で暮らす皆さんの日々の活動や文化から生まれます。地域の活動が増えるほど、宿泊客や来訪者も増え、地域での消費・入湯税の税収・事業活動が活発になり、結果として市民の暮らしに還元されていきます。観光の数字だけを見ているとわかりにくいですが、地域活動の積み重ねが観光を下支えしているという事実は、非常に大切な視点です。

だからこそ私は、行政主導から地域主導の観光開発へと切り替えていくことが重要だと考えています。行政には、地域が主役になれる環境づくりへ、しっかり舵を切っていただきたい。

観光を支えるのは〝地域の力〟です。

そして観光の活性化が、市民の暮らしの豊かさに実感として返ってくる。この仕組みを整えることが、これからの観光行政の使命です。

私自身も、文化や伝統、新しい世代の挑戦を大切にしながら、地域を主役にした観光を育てるために、全力で取り組んでまいります。

観光政策について

青柳篤始事務所 〒919-0633 あわら市花乃杜一丁目1-17 TEL:0776-73-0313 mail:info@a-aoyagi.com

委員会活動報告

動く委員会へ。防災減災特別委員会の新たな取り組み。

防災減災特別委員会では、災害から市民の命と暮らしを守るため、火災・地震・風水害・インフラ老朽化・空き家対策など、幅広い課題を横断して調査・提言を行っています。

今年度は、委員会のあり方そのものを“動く委員会”へと見直しました。委員７名がそれぞれ担当分野を持ち、現場に足を運びながら調査を深めます。火災の延焼要因となる空き家の実態や、近年増えている風水害への備え、避難情報の伝わり方など、生活に直結する課題を実際に見て把握します。調査成果は、溜め込まずに年４回オープンな場で発表し、積み上げた学びをその都度形にして残すことにしました。



委員長として私が意識しているのは、「難しい防災を、日常の言葉で分かりやすく伝えること」です。防災は専門家だけのものではなく、皆さんの生活のすぐそばにあるもの。市民の皆さんが防災を自分ごととして考えられるよう、情報をできるだけ分かりやすく届けていきます。

これからも委員会一丸となり、調査と提言を重ね、市の防災力を確実に高める“動く委員会”をめざして、全力で取り組んでまいります。

なぜ私は視察に出かけるのか



私は年間を通して、全国の様々な自治体へ視察に出かけています。視察の意義についてご質問をいただくことがありますが、視察は、市政を前に進めるために欠かせない大切な仕事だと考えています。

視察の現場では、資料だけでは分からない空気や課題、なぜこの制度が上手くいっているのか、あるいは上手くいかないのか。といった〝リアル〟に触れることができます。行ってみなければ気づけない課題や、現場でしか見えない工夫があります。

また、成功例だけでなく、他市の失敗や悩みの経験談を直接聞けることも視察の大きな意義です。リアルを知っておくことで、あわら市で同じ失敗を繰り返さないような手を事前に打つこともできるようになります。

視察は観光旅行ではありません。多くの視察は自費で移動し、宿泊し、現場の声を直接聞きに行っています。

これからも、市民の皆さんの負担にならない形で現場に出向き、得た学びや気づきをどう暮らしに還元していくのかを考えながら、あわら市の政策づくりに関わってまいります。



活動報告
Activity Reports


苫小牧市視察


森田理紗子さん あわら観光大使に就任


アリーナ イベント視察


災害用ドローン


福井大学ベンチャー


AWARA んぴっく～スポーツの祭典～


あわら市文化祭



サウンドボックス

みなさんのご意見をお聞かせください。

- 一般質問へのご意見
- 子育て支援　●地域活性化
- 人口減少



市政よろず相談室

メール・FAX は 24 時間受付
mail：atsushi@a-aoyagi.com
FAX ：0776-73-5539
TEL ：0776-73-0313

車座座談会 会場募集



自治会の役員会や集会の場にお声がけください。地域の課題やご意見を直接伺いにまいります。

編集後記

今年もサンドボックスの活動を通して、たくさんの若い世代の「やってみたい」に触れることができました。挑戦する姿や、応援してくださる皆さんの温かい気持ちに、私自身が多くの力をいただきました。

来年も全７回の開催を決めています。また会場で、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。一人ひとりの挑戦が、このまちの未来を明るくすると信じています。

令和８年も、市政と現場の両方から、全力で駆け抜けてまいります。

